

第13回 倉敷市教育委員会議事録

1	開催期日	令和4年12月22日(木)		
2	開会及び閉会時刻	開会時刻 14時00分 閉会時刻 14時37分		
3	場所	教育委員室		
4	出席者	井上正義		
		沼本浩彰		
		大原あかね		
		難波弘志		
		江原雅江		
5	会議に出席した事務局又は教育機関の職員の職氏名			
	職名	氏名	職名	氏名
	教育次長	早瀬 徹	次長	山本 明
	参事	小野 弘志	副参事	梶田 貴代
	参事	小野 敏	課長	長野 渉
	部長	笠原 和彦		
	参事	三宅 香織		
	部長	三宅 健一郎		
	参事	島田 旭		
	次長	根岸 正治		
6	教育長等の報告			

7 議題 なし

8 議事の概要, 質問した者の氏名及びその要旨並びに議決事項

別紙のとおり

9 傍聴の状況

公開

傍聴人 0名

議事録者氏名 堀内秀和

議事録署名委員

教育長 井上正義

委員 沼本浩彰

〈教育長〉 それでは只今から、教育委員会を開催いたします。

只今のご出席は5名、会議は成立いたしました。

前々回及び前回の会議録につきましては、恐れ入りますが、次回の会議の際にご確認いただくこととさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

本日の傍聴者はありません。

今日は、今年最後の教育委員会ということで、対面でさせていただいております。今、コロナの感染も拡大しておりますので、できるだけ短時間で、また、来年1月からはしばらくリモートになろうかと思っておりますが、よろしくお願いいたします。

この度は、議案がございませんので、協議事項から入ります。

協議第3号「令和3年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について」のご説明を、小野弘志参事、お願いします。

〈小野弘参事〉 教育委員会の小野と申します。よろしくお願いいたします。

協議第3号「令和3年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」につきまして、事前送付させていただいております資料をもとに協議させていただきます。

まず、点検評価の今後の予定スケジュールについてでございますが、本日、ご協議をいただきます内容と学識経験者の意見を記載した最終案を来年1月の教育委員会に議案として提出させていただきまして、ご議決をいただきましたら議会に提出するとともに、ホームページに掲載し公表する予定としております。

続いて、点検評価報告書の説明でございますが、私からの説明は、報告書の構成などを中心にさせていただきます、「施策の内容」、「評価」や「課題と今後の方針」などにつきましては、ご質問をいただき、個々に回答させていただきますと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、冊子の方をご覧ください。点検・評価の対象は令和3年度でございます。冊子の構成は、昨年度のものから基本的には変更をしておりませんが、今回の点検・評価から、令和3年3月に改定しました倉敷市教育振興基本計画が対象となっております。

それでは、1ページをご覧ください。こちらから3ページまでに教育委員会の活動状況といたしまして、定例会の開催状況や議決案件などを掲載しております。

4ページをご覧ください。こちらには、点検・評価の対象、実施方法について記載しております。

なお、5ページに記載しております方々が、今回、ご意見をいただきます学識経験者の先生方でございます。尾崎先生は昨年度から引き続きのお願いとなり、千葉先生と木戸先生につきましては、今回が初めてのご意見のお願いとなります。

次の6ページ、7ページは、施策体系表となっております。

8ページからは、重点的に取り組む事業の施策の点検・評価を掲載しております。令和3年3月に改訂した倉敷市教育大綱、倉敷市教育振興基本計画に基づいて教育行政を進めるため、現在の社会状況やこれまでの取り組みの状況を踏まえ、特に力を入れて取り組むべき内容を倉敷市教育振興基本計画の3つの基本目標ごとに「重点施策」として掲げております。

令和3年度の重点施策のうち、基本目標の1つ目である「思いやりの心を持ち、自分らしく、たくましく生き抜く力を育成する」では、22の重点事業に取り組んでまいりました。拡大した事業が、9ページに記載をしております「GIGAスクール構想に対応したパソコン等整備事業」と、11ページに記載をしております「幼稚園預かり保育実施事業」と「3歳児保育実施事業」の3つでございます。

12ページに「評価」と「課題と今後の方針」を記載させていただいております。

続きまして、14ページをご覧ください。基本目標の2つ目である「夢と生きがいを持ち、学び続けることができる社会を実現する」につきましては、8つの重点事業に取り組んでまいりました。

15ページをご覧ください。新規事業は「天文王国おかやま事業」でございまして、拡大した事業は「いきいきパスポート事業」でございました。

16ページの「評価」と「課題と今後の方針」は記載のとおりでございます。続きまして、18ページをご覧ください。基本目標の3つ目である「ふるさと倉敷を誇りに思い、倉敷の未来を担っていく力を育成する」では、6つの重点事業に取り組んでまいりました。拡大した事業は、「地域連携による学校支援事業」と「学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）推進事業」でございました。

20ページに「評価」と「課題と今後の方針」を記載させていただいております。

21ページからは、基本施策の点検・評価でございます。14個の基本施策と30の個別施策、そして、122の個別事業に取り組んでまいりました。それぞれの基本施策には、冒頭に「施策に対する考え方」、「数値目標」を

掲載し、評価指標と指標の算出方法、そして、目標値と実績値のグラフを掲載いたしております。

次に、「施策を推進する主な事業の評価」といたしまして、個別事業それぞれの「目的」、「令和3年度の主な実績」、「今後の方向性」を掲載し、まとめといたしまして、基本施策の「課題」、「今後の取組方針」を記載し、学識経験者の意見をいただき掲載をすることといたしております。

簡単ではございますが、説明は以上でございます。ご協議のほど、よろしくお願いたします。

〈教育長〉 はい、ありがとうございました。それでは、ご質問・ご意見等ございましたら、お願いたします。

〈難波委員〉 19ページの上から2つ目に「奨学金給付貸付事業」というのがありますが、
(Ⅱ)のところで、「職業能力開発大学校生等を対象に加えた」とありますけども、本来、これはどこの大学とか学校を対象にしているのか教えていただけたらと思います。

〈笠原部長〉 手元に資料がありませんので。

〈難波委員〉 次のときでも構いません。その上のところに、「市の指定する職種に就き市内で働く」とありますが、児島医師会の看護学校は奨学金を途中から貰えるようになりまして、生徒たちは卒業後、市へ住民票をおき、就職すれば返済を免除されたりするなどで助かっていると聞いていますので、ぜひ、拡充していただけたらと思います。

〈教育長〉 併せて、平成29年度から始めているので、例えば、卒業生の方がどういうところへ就職されているのか、もし把握できるものであれば、また詳しいことは次回でも結構ですので、まとめたものを発表いただくということをお願いいたします。

他の委員の方で、何かありましたら。

〈大原委員〉 本当に細かいことなのですが、「今後の取組方針」のところを拝見していると、今までもやってらっしゃったことが書かれていると思うんです。特に、「C」になっているものは、今までやっていないことをどう取り組むか、また、今までやっていたことは何に注意をするかということをもともと書かれる方が伝わるのではないかと思います。それから、もう一つ、不登校児童については、やはり出現率だけではなく、不登校の子たちに教育がアクセスしているかどうか、その子たちの学力が確保されているかというのを指標として出していただけたらと思います。意見ということでよろしく申し上げます。

〈教育長〉 学校教育部長から何かありましたら。

〈笠原部長〉 御意見としてお伺いさせていただきます。

〈教育長〉 いわゆる不登校の子どもさんへの対応も、だいぶ昔と変わってきていると思うので、特に変わった点とか、例えば、大きく違うのは、去年まではタブレットは学校で使用するというので、家庭へ持ち帰らさないというのが大きい方針でしたが、もう今年から試行を始めて、来年度からすべて持って帰るというようなことが大きく異なります。そして、不登校の子どもにもタブレットを活用した授業ができるかどうか今試行しているんですが、それを活用してコミュニケーションはしっかりとっていこうというようなことになっていると思います。また、不登校については、新聞等でも全国で24万人というような大きな話題にもなっていますので、倉敷市での不登校への取り組み等、今こういうことをやっているということを委員の皆様方に示していただけたらと思いますので、また、次回よろしく申し上げます。

〈沼本委員〉 19ページの下から3番目に「学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）」のことが書かれています。私が玉島小学校のコミュニティ・スクール

に一度参加したんですけど、そのときに、この実施を始めた学校数がこんなに少なかったかなと、もうちょっと多いのではないかなというイメージだったんですけど、そのこのところを教えていただければと思います。

〈三宅部長〉コミュニティ・スクールは学校評議委員会の発展型であり、その実施について学校にお願いをしているところですが、少しずつ増えてきている状況だと思います。まだ、全学校までは導入されてはおりません。

〈教育長〉令和3年度は33校園になっているんですが、令和4年度は何校園なんですか。

〈三宅部長〉令和3年度までしか手元に持っていなかったもので、申し訳ございません。

〈沼本委員〉今後、徐々に増えていっているようなイベントとか活動ができるようになったときに、今、決算額はないというふうになっているんですが、今後予算は確保する方向で考えてらっしゃるのですか。

〈三宅部長〉先ほども申しましたように、コミュニティ・スクール自体は、あくまで学校運営の協議の場だと考えています。私も、ずっと前ですが学校運営協議会に参加したことがあります。そのときには、「学校でこういうことをしたらどう思われますか」とか、そういったことを協議したと思います。地域で学校の支援を行う「地域連携による学校支援事業」という形であれば予算がついているのですが。

〈沼本委員〉今後、コミュニティ・スクールに予算がつくということは考えにくいということですか。

〈三宅部長〉コミュニティ・スクール自体は予算を伴うものではないと理解しております。学校には、コミュニティ・スクールの制度を導入するように引き続き呼び掛けてまいります。

〈沼本委員〉分かりました。

〈江原委員〉 9月8日の文部科学省研究協議会の「地域と学校の連携に関する分科会」に参加した際に、生涯学習課からデータをいただいております、そのときにお伺いした際には、かつては30%ぐらいのコミュニティ・スクールの割合だったのが、令和4年に50%ほどというふうになっていますので、三十数校から四十数校になったのかなとは思っています。

〈沼本委員〉 ありがとうございます。

〈江原委員〉 全国的にも、東京の方ではもう全校やっているというところもあれば、九州の方では始まったばかりというところもあって様々でした。

〈教育長〉 山口県では、県教委が音頭をとって全県でコミュニティ・スクールをさせていると聞いています。

〈大原委員〉 63ページの「身近に子育ての相談ができるところがあると思っている人の割合」で、未就学で20%、小学校も35%ぐらいが相談できるところがあると言えない方たちがいらっしゃいます。ここが、虐待とか貧困とかのそういういったしんどい思いをしている人たちがここに入っているのかどうかというのは非常に気になります。もちろん、アクセスなさっていたら教えていただきたいと思っているのと、それから、67ページの「地域の人に支えてもらって子育てをしていると思う人の割合」を見たときに、就学前児童の保護者の方の割合が低いのはどういうことと私は思います。倉敷市が子育てするまちだったら、未就学の子たちの保護者が地域の人に支えてもらっていると、もっと思った方がいいのではないかと素直に思いますし、ほとんどの子どもたちが公立の小学校に行っているこの倉敷市内で、半分の親御さんしか地域の人に支えてもらっていないという状況を、いくらコロナの影響だとしても不思議な気がしますので、皆さんがやっていないという訳ではなく、もしも、今、皆さんの業務量の中でできないのだとしたら、やはりきちんと予算をと

り、子育てを倉敷のまちでやるということを教育委員会として言っていかなければいけないのではないかと考えております。意見ですので、よろしくお願い申し上げます。

〈教育長〉 三宅部長、何かありましたら、お願いします。

〈三宅部長〉 相談の場があることを知らないという方もいらっしゃる、相談自体を逆にしたくないという方もいらっしゃるなど、いろんなご事情の方がいらっしゃるかと思います。近所に頼る方がいないのかなど、具体的なことは分からないですけども、ただ、そのように感じられているという現実は受け止めなければいけないと思っています。

〈教育長〉 これだけではどういったご意見なのか分かりにくいので、具体的にもし内容が分かるのであればと思います。

〈大原委員〉 皆さん、お忙しいと思うので、意見ということで聞いておいていただければと思います。

〈教育長〉 他には、委員の皆様方で、よろしいでしょうか。

今後の予定はどのようになっていますか。

〈小野弘参事〉 本日の協議後は、この案を学識経験者の方にお見せして、評価を書いていたものを1月の教育委員会に議案としてご提示をさせていただきます。

〈教育長〉 大体、色はこの色で、カラー版のものができるんですね。

〈小野弘参事〉 はい、このイメージです。

〈教育長〉 そういったことも含めて、何かご意見があればということでよろしいですかね。細かいところでも構わないんですが、何か見られてちょっと分かりにくいところとか、直した方がいいところがありましたら、お願いします。例えば、今日ご意見が出なくても、また、いくらか何日ぐらいいまでにご意見を、電話とかメールで教えていただいても構わないんですね。

〈小野弘参事〉 もうそれは構いません。

〈教育長〉 また、気付かれたことがありましたら、お願いします。このアンケートはもう途中から変えられないんですよ。

〈小野弘参事〉 はい。このアンケート自体は、おそらく上位計画ですので、総務課とかそのあたりと連動してアンケートが出ておりますので、項目を変えるとかは、またいろんな調整も必要になってくるのかなというふうに思います。

〈教育長〉 例えば、こういうアンケートをして欲しいとか、そういうご意見を伺っておけば、次に大きい上位計画を立てるときに、アンケート内容の修正はできるのでしょうか。

〈小野弘参事〉 そういった声をいただいていますので、次にまた計画するときには提案させていただければいいのではないかと思います。

〈教育長〉 それでは、またお気付きの点がありましたら、教育企画総務課の方へご連絡いただけたら、またご意見を集約したいと思いますので、ゆっくり見ていただけたらと思います。よろしくをお願いします。

それでは、次に、報告事項に移ります。

「出張学校給食展について」のご説明を、三宅参事、お願いします。

〈三宅参事〉 はい、学校教育部参事の三宅でございます。

チラシを添付しておりますので、そちらの方をご覧ください。毎年、1月24日から30日までの一週間を「学校給食週間」としておまして、多くの自治体で学校給食の意義や役割について関心を持っていただくためのイベントを企画しております。倉敷市では、1月28日土曜日の午前11時からアリオ倉敷1階センターコート横において、「～来て 見て 体験！！ 倉敷の食育～」というのをテーマに、学校給食の現状について、市民の理解と関心を高め、これからの学校給食の役割やあり方について共に考えることを

目的に実施いたします。倉敷市の学校給食展は年2回実施しておりまして、今年度は、10月と今回ということになっています。内容としましては、学校栄養士が作成した給食に関する掲示資料や食育動画の紹介、Googleフォームを活用した学校給食に関する食育クイズなどができるようになっておりまして、小学校低学年から大人まで参加できるよう、難易度によってレベルを分けたクイズを用意しております。ご自身のスマホやタブレットを使ってQRコードを読み取って、その場でクイズに答えていただけるようになっております。参加者先着200名の方には、実際に給食で提供されているゼリーなどのプレゼントが出るようになっていた予定で

報告は以上でございます。よろしくお願いいたします。

〈教育長〉 ありがとうございます。それでは、ご質問等ございましたら、お願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、本日の議題はすべて終了いたしました。

それでは、恒例によりまして、難波先生の方から、コロナの最近の動向と対策等ございましたら、よろしくお願いいたします。

〈難波委員〉 ここ数日、毎日、岡山県のCOVID-19感染症は3,000名を超えていますし、各学校での学級閉鎖の数も随分増えているように聞いています。コロナが出現してから約3年が経過したんですけども、変異を繰り返し、3年経ってもここまで感染が続いているとは思いませんでしたし、今までにいろんなことを述べてきたんですけども、なかなか予測が当たっていなかったなど実感しています。一昨日、岡山県が医療ひっ迫警報を出しました。デルタ株に比べれば、現在、流行しているオミクロン株のBA.5は肺炎等の下気道感染を起こしにくいので重症化する例は少ないんですけども、感染力は明らかに強くなっていて、デルタ株に比べたら本当に各学校で広がって

いるのを感じます。今、患者数が多くなってくると高齢者の入院患者等も多くなってきました、岡山市内のコロナ病床などは定員を超えて入院患者が増えているというふうなことも聞きました。感染対策をこれまでどおり徹底していただければとは思いますが。学校では、手洗い、3密回避の徹底、換気の実施、もう一つは、発熱などで体調が悪い場合は、登校、登園を控えるという形にしていればとは思っています。それから、子どもたちが部活動の場で感染していると感じます。着替えを時間差で行ったりとか、その他はマスクを着けてできるだけ短時間で行うなどの対策が必要かなとも思っています。それから、給食のことですが、少しずつ緩和してもいいのではないかという意見もありますけども、給食のときはマスクを外しますので、できるだけ静かな給食時間にもうしばらくしておいた方がいいのかなと思っています。それから、ワクチン接種に関してですけども、生後6か月から4歳、5歳から11歳、12歳以上のワクチンが続いていますけども、どこも接種率が上がっていません。BA.5対応ということで、もっと12歳以上の年齢の成人、高齢者も打っていくかなと思ったんですけど、あまり打っていませんし、小学生の5歳から11歳のところ、それから、乳幼児も20%以上にはなかなかありません。患者様に聞いてみると、「なんとなく」「やっぱり不安だから」というようなことで様子見のように感じるので、もう一度、厚労省HPとか予診票の中に入っている説明書をよく読んでくだされば、ある程度、安心できるような内容も書いていますので、それを理解した上で、接種がもう少し進めば流行は少し落ちてくるのではないかと考えています。前回は話しましたが、やっぱり子どもは軽く済む場合が多いんですけども、39度、40度が3日続く子どももたくさんいます。ワクチンを打っていればそこまでの強い症状は少ないので、ぜひ、ワクチン接種が進んでいっ

たらなと思っています。また、後遺症もワクチンを打っている方が軽く済むと言われていました。もう少しワクチンのことを正しく理解して、接種が進んでいけばなと期待しております。来年3月の卒業式は、通常どおりには行わないようですが、令和5年度は、もう少しコロナ前の普通の学校生活であり、いろんな行事も行えるようになるのではないかと期待しています。これからの冬の間は、ワクチンを打つことと、節度ある生活を心がけていただければと思います。それから、インフルエンザは、コロナのBA.5に比べれば感染力は少し弱いので、皆さんがちゃんとマスクを着けてちゃんとした対応をすれば、そこまで流行らずにいくのではないかなと思いますが、コロナはワクチンを打っていただければと考えています。

〈教育長〉 ありがとうございます。例えば、子どもさんが病院の方へ来られて熱があったときに、インフルエンザかコロナかを判断するのは、お医者さんも大変なのではないかなと思うのですが、今どういうやり方で判断されているのでしょうか。

〈難波委員〉 例えば、私の医院では、これまでコロナは大体500～600人ぐらい陽性が出ています。検査はその3倍、4倍はしたでしょうか。患者様には車で待っていただき、そこに検体を取りに行く方法をとっています。診察だけでは、風邪と区別はつきませんし、もちろんインフルエンザとも区別はつきません。検査しないと判断はつきませんので、インフルエンザのA、Bとコロナが一緒になった抗原検査のキットを使っています。

〈教育長〉 今は、かなり学級閉鎖が出ていますよね。学校医の先生方も大変だろうなと思います。これだけの同じ地域で小学校の子どもさんが行かれたら、なかなか対応されるのも大変だと思います。大変お世話になります。ありがとうございます。

それでは、すべて終了しましたが、事務局の方から何か連絡がありましたら、特にはよろしいですか。

それでは、委員の皆様方で何かご発言がありましたら、特にはよろしいでしょうかね。

それでは、本日の教育委員会はこれで閉会といたします。どうもありがとうございました。